

科技高 いきものの記

Vol.50 2022.4.26

生物教員 佐藤龍平

大きな目が可愛い 学校周辺のハエトリグモ

科技高とは実に面白い学校で、毎年必ずのようにクモが好きだという生徒に出会う。今年の新入生についてはまだそういう生徒には出会っていないが（代わりにゴキブリ好きが2人もいたが）、“隠れクモ好き”はいるのだろうか。もともと私はクモにはさほど興味を持っていなかったが、こうも毎年のように生徒からクモ好き攻撃を受けていたら、不覚にもすっかりクモに魅了されるようになってしまった。

クモの中でもハエトリグモの仲間（ハエトリグモ科）は、一般人の中でもそこそこ人気のあるグループで、小さい体の割に大きな目を持っていてとても可愛い。家の中でも見かけることのあるお馴染みの存在で、ぴょこぴょこ飛び跳ねる姿から英語ではJumping Spiderと呼ばれている。日本では約100種、世界からは6,000種見つかっていて、クモの仲間では最大のグループだそう。ここ1年、試しに校庭や猿江公園で探してみたら、写真のようにたくさんの種類が見つかった。カラフルな色彩のものや、アリに擬態するユニークなものなど多様な種類がいて面白い。指を近づけると頭を上げてじっと見つめてくるのだが、その姿がとても愛らしいので、最近ではハエトリグモの目の前で指を振ってこっちを向け、クモと目が合ったらニンマリするという奇怪な遊びにハマっている。

目がとても大きいので視力はかなり良いようで、色んな場面で「身振り」を使う行動が知られている。例えば、求愛だ。まるでオスの鳥がメスの前でダンスを踊るように、オスのハエトリグモがカニ歩きしながら両手を振ったり下げたりしてメスにアピールする。行動面でもとても面白い生き物だ。

【校庭で見つけたハエトリグモたち】



シラホシコゲチャハエトリのオス



オス（横から）



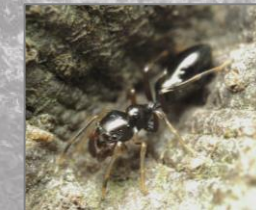
幼体



黒化型オス



オス



メス

ヤガタアリグモのオスとメス

ヤサアリグモ？のメス

アリグモ類は姿かたちだけでなく、歩き方もアリそっくりだ。アリは蟻酸を出し集団で行動することから多くの生物に恐れられている。アリグモはアリに擬態することで外敵から身を守っていると考えられている。



求愛する
マメジロハエトリのオス



長い第一肢は、求愛や威嚇、捕食の際に用いられる。



アオオビハエトリのメス



アリを捕獲成功

第一肢を上げてバンザイしながら近寄り、アリを捕食する（詳しくはいきもの記Vol.2参照）



カタオカハエトリのオス

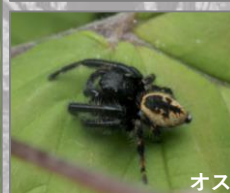
校庭ではまだ一度しか見えない。綺麗な橙色の脚をもつハエトリグモ。



グンバイムシを捕らえたネコハエトリのメス



橙色型のメス

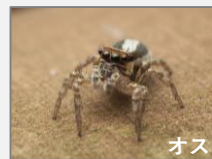


オス

ハエトリグモは4対8個の眼を持ち、中央の2個は特に大きい。この眼がとても可愛い。眼が良いので待ち伏せ用の巣は作らず、動き回って獲物を捕らえる。

【猿江公園で見つけたハエトリグモたち】

猿江公園には校庭では見られないハエトリグモがたくさんいる。多分まだまだいる。いったい何種類生息しているのだろう...



オス



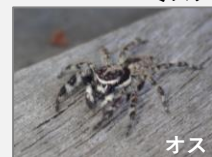
メス



メス

ミスジハエトリ

キレワハエトリ



オス



メス

シラヒゲハエトリ

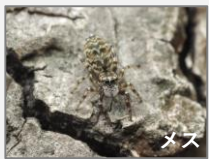


オス

メガネアサヒハエトリ

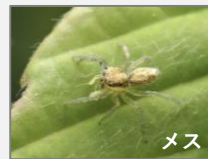


オス



メス

イナズマハエトリ



メス

チャイロアサヒハエトリ